

数学・文系 — 岡山大学 2024 年入試問題分析 — 岡山進研学院

<b>全体講評：</b> 昨年まで出題されていたすぐに手が動く、いわゆる典型問題が少なくなり難易度はやや上がったようだ。普段からの勉強が大きく左右する大問1、2、計算量の多い大問3、単元が複数にわたる大問4と共通テストのような答えだけを追いかける問題ばかりの演習では太刀打ちできない。計算力を含めた基礎をきちんと確立させ、過程も重視した答案作成を普段の学習から意識していく必要があるだろう。		<b>試験時間</b>	120分	
		<b>難易変化</b>	易化／やや易化／昨年並／ <span style="border: 1px solid black;">やや難化</span> ／難化	
		<b>分量変化</b>	減少／やや減少／昨年並／ <span style="border: 1px solid black;">やや増加</span> ／増加	
大問	区分	内容	講評	レベル
問1	数Ⅱ	整式の除法 高次方程式	理系と共通の問題。理系の生徒には普段から目にする形式ではあるが、解答方針をはっきりさせて進めていく必要がある。	★★
問2	数A	確率	(2)までは理系と共通の問題。問題の前半は反復試行ではあるが、後半から最短経路の問題だと気付いたら数えて処理ができる。	★
問3	数B	平面ベクトル	問題ごとのつながりをよく考えていく必要がある。計算量も多いため、前問の結果をどのように活かしていくかがポイントになるであろう。	★★
問4	数Ⅱ	図形と式 微積分	内容は数Ⅱの微積分の頻出事項であるが、円の接線をパラメーターを用いて立てることや1/6公式の使い方に慣れていないと厳しい。	★
<b>学習指針：</b> 文系数学とはいえ、理系と共通の問題も多いことからきちんとした数学の勉強を意識する必要がある。答えだけを追求するのではなく、途中の過程や設問のつながりなども意識して答案を作る練習をすること。しかしながら、そのためにはまずは確固たる基礎力を確立させる必要があるだろうから、時間をかけて典型問題を中心にじっくりと進め、できることを一つずつ増やしていくことが大切である。		※ 難易変化、並びに分量変化は対昨年比となっています。 ※ レベル表示は次の区分になります。 難 → ★★★ やや難 → ★★ 標準 → ★ やや易 → (無表示) 易 → (無表示)		